

平成 28 年度 第 1 回公開講座 アンケート調査

かまくら地域介護支援機構 かまくら食支援研究会

【調査結果】

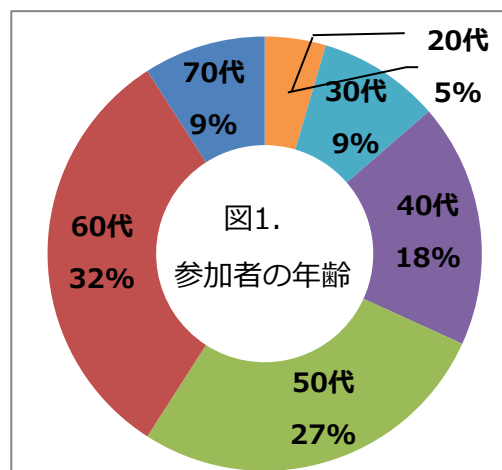
表記調査を実施した結果、調査対象者数 27 人のうち 22 人から有効回答を得た（回収率は約 8 割）。

【問1. 参加者の性別】

男性 3 名、女性 19 名で参加者全体の約 9 割を占めていた。

【問2. 参加者の年齢】

20～70 歳代の参加者の中で、50 歳代と 60 歳代が多く全体の半数以上を占めていた（図 1）。



【問3. 講座を知った理由】

「チラシ、広告を見て」、「知人、友人に勧められて」と「その他」のうち“職場”という回答が同数で、多く見られた。

【問4. 講座の感想】

「大変良い」が全体の半数以上を占めていて、「良い」と合わせると 9 割になった。また、「良くない」と「どちらとも言えない」の回答はなかった。

【問5. 講座の時間】

「普通」が全体の約 9 割を占めていた。また、「長すぎる」や「短すぎる」の回答はなかった。

【問6. 会場について】

「良い」が全体の半数以上を占めていた。また、「良くない」の回答はなかった。

【問7. 内容について】

「大変良い」が全体の半数以上を占めていた。他には「良い」の回答しかなく、「普通」と「良くない」の回答はなかった。

【問8. 今後の希望テーマ】

主要な意見としては、調理実習を希望するものが多く見られた。内容としては、嚥下しやすい食事に関する意見が最も多かった。

加齢とともに、食べやすくおいしいと感じる料理の形態や味付けが変化することに加えて、嗜好の個人差や基礎疾患も献立作成には考慮しなければならない。個々の状態に合わせた食品の選択や調理の工夫

方法などのテーマが求められていることが全体的に見うけられた。

【問9. 講座に対する意見】

約 8 割が「レシピが参考になったので、自分で実践やアレンジをしてみようと思う」という感想だった。また、「シチューは、食材の大きさが大事だと思った」や「準備をしっかりと手際よく調理ができることを実感した」など調理の作業工程に関する感想もあった。

「参加してよかった」、「今後の食事作りに役立つ」、「仕事に活かせる」や「勉強になりました」という前向きな感想も見うけられた。

前項【問 8.】でも今回のような公開講座が求められているように、食支援には、多職種による勉強会の継続的な実施が重要であると改めて痛感した。